

意思決定は、 4つの段階を駆け上がる

リーン → AI・データ活用 → DI → Muda理論。御社は、いまどこにいるか。

五十嵐こと —— AIプロダクトアーキテクト

Ano Zenjo™=Decision Intelligence × Muda理論

Z-AI株式会社（静岡県長泉町）

はじめに

会社の意思決定は、いま4つの段階を駆け上がっています。しかも、その歩みはどんどん速くなっています。御社は、いまどの段階にいるのでしょうか。

第1段階 リーン

見えるものだけで効率を上げる

1950年代のトヨタに始まり、数十年をかけて世界のものづくりを作り変えた考え方です。在庫を減らし、不良品をなくし、仕事の流れを速くする。目に見えるものだけを見て判断し、目に見えるものだけを動かす。これが、二十世紀の経営の土台になりました。

第1段階から第2段階までは、数十年かかりました。

第2段階 AI・データ活用

過去のデータから先を読む

見えるものを、もっと細かく、より正確に見る段階です。膨大な過去のデータを分析して、「これまでたいていうまくいったやり方」を教えてください。

ただし、ここに出てくる答えは、あくまで「過去の成功例をきれいに整え直したもの」です。まだ誰も見たことのない新しい未来は、過去のデータの中にはありません。AIは、昨日までの戦い方には驚くほど強い。けれど、明日の新しい戦いに対する答えは、まだ持っていないのです。

第2段階から第3段階までは、数年に縮まりました。

第3段階 意思決定の知能化（DI）

人・組織・リスクまで含めて考える

DI（Decision Intelligence）は、アメリカのコンピュータ科学者 Lorien Pratt（ロリアン・プラット）が提唱し、世界的な調査会社 Gartner（ガートナー）も今後の重要な技術トレンドに位置づけている考え方です。データ分析（データサイエンス）に、社会科学・意思決定の理論・経営の科学を組み合わせた、新しい分野です。

データの分析だけでは、複雑にからみ合った経営判断を下しきることはできません。そこでこの段階では、判断に必要な要素をすべて洗い出し、それぞれの関係を整理したうえで、もっとも成果の大きくなる選択肢を選びます。データだけでなく、人・組織・リスクまで含めて考える、現在の世界最先端の手法です。

ただ、これも突き詰めれば「すべてを整理して、いちばん得な答えを計算する」やり方です。つまり、まだ「効率を最大にする」という枠の中にあるのです。

第3段階から次の段階へ。その動きは、もう始まっています。

第4段階 Muda理論

枠の外にあるものへ近づく

DIは、正しい。けれど、どれだけ学ばせても、整理しても、得な答えを出しても、その枠の中ではどうしても届かない場所があります。

測ろうとすると壊れてしまうもの。効率だけを追い求めると、みんなと同じ答えにたどり着いて、強みを失ってしまうもの。短い時間のものさしでは、見えてこないもの。

二十世紀の経営は、こうしたものを「ムダ」と呼び、どんどん削ってきました。けれど、その削られたものの中にこそ、実は会社が生き残るために欠かせない「人間」の部分が混ざっていたのです。

リーンの言う「ムダ」は、効率のために削るもの。Muda理論の言う「ムダ」は、生き残るために守るべきもの。同じ言葉ですが、その意味は正反対です。

ムダとは、人間である。

御社は、いまどの段階にいますか

段階を駆け上がるほど、判断はより先を読み、より速くなります。ただし、流れに乗るだけでは、みんなと同じ場所にしかたどり着けません。本当の強みは、その先にあります。続きは「AIに見えない、四つの目」でお読みください。

ご相談ください

御社の意思決定が、いまどの段階にあるか。次の一步をどう設計するか。まずはひと言
お聞かせください。

五十嵐こと | Z-AI株式会社（静岡県長泉町）

Decision Intelligence × Muda理論 | anozenjo.org